

修道学園(中・高)
同窓会会報誌

第 91 号

令和7年9月1日発行

修道学園
創始300周年
記念号



CONTENTS

- 01 会報誌の発行にあたって
会長 深山 英樹 (高12回)
- 02 支部活動報告
関東支部 宮田 二郎 (高33回)
- 03 近畿支部 河本 浩二 (高45回)
- 04 九修会 石本 俊亮 (高27回)
- 05 東部修道会 前原 敬悟 (高20回)
- 06 江能修友会 山下 江 (高23回)
- 修道医会 松本 正俊 (高42回)
- 07 広島修道歯科医会 毛利 雅哉 (高31回)
- 08 広島市修道会 長田 開 (高67回)
- 09 同窓生だより
修道と共に七〇年 畠 眞實 (高7回)
修道十日会 修道学園創始三〇〇周年記念 卒業六七周年同期会
池本 章 (高10回)
- 10 多様性こそ宝 高木 一之 (高10回)
- 11 1955年修道中学卒 4 組クラス会 開催のこと
中丸 建二 (高10回)
- 12 二十五年目を迎えた月例「修道火曜会」
曾爾 征男 (高14回)
司会者として同窓大会をふりかえる
本名 正憲 (高33回)
- 13 修道生から産婦人科医師へ 香月 孝史 (高39回)
- 14 恩師に感謝 片上 大輔 (高52回)
- 15 修道学園同窓会連合会・修道学園(中・高)同窓会
事業報告並びに収支決算、収支予算
- 19 同窓会ニュース
本館建替等工事進捗報告とご支援へのお礼
- 20 修道学園(中・高)同窓会会員名簿第38号発行のお知らせ
修道中学校・修道高等学校創始300周年特設サイト
(ホームページ)のご紹介
- 21 寄附金報告
- 23 事務局だより

修道
SHUDO

..... 第 91 号同窓会会報誌の発行にあたって



同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度の同窓会会報誌第91号の発行にあたりましては、各方面より多大なるご協力を賜り無事発行の運びとなりました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

この会報誌が同窓会と同窓生の、また、同窓生同士の情報交換・情報発信の一助となれば幸いです。

さて、皆様ご承知のとおり、本年は1725（享保10）年の広島藩「講学所」創始以来300周年を迎える記念の年でございます。

これまで幾多の困難がございましたが、その困難を乗り越えながら、300年もの長きにわたり本学園が発展してこられたのも、先輩諸氏の弛まぬ努力と、歴史に裏づけられた脈々と続く、皆様方の母校修道学園への熱い思いの賜物でございます。

また、これまで皆様方には、修道中学校・修道高等学校の今後の更なる発展に資するため、『修道学園創設300周年事業 修道中学校・修道高等学校本館建替等工事』についてご支援をお願いしておりましたが、皆様のご理解とご協力を得て、寄付額も目標を大きく上回る2億5千万円余となり、そのうち同窓生からの寄付は8割、2億円を超えるなど、皆様方の母校へよせる熱い思いと行動力が、この結果を生み出されたものと考えております。本当にありがとうございます。心より御礼を申し上げます。

創始300周年を迎え、これからも、我々修道学園（中・高）同窓会が母校を助け、未来志向で、更なる学園の発展に寄与すべく、引き続き、同窓会の活動を一層充実させていかねばならないと、改めて決意を、新たにしますのでございます。

会員の皆様方には、引き続き、修道学園の発展のために、ご理解とご協力を賜りますよう、宜しくお願いいたします。

修道学園（中・高）同窓会 会長 深山 英樹（高12回）

支部活動報告

2025年

関東支部のつどい開催報告

関東支部

宮田 二郎（高33回）

2025年7月14日（月）、東京ドームホテルにて、修道創始300周年を記念した「関東支部のつどい」が盛大に開催されました。今年のテーマは「SHUDO300&NEXT100 300人と知り合

いになろう」。修道の歴史と先人を振り返りつつ、現役で活躍する同窓生の活動を称え、次の100年を見据えた交流を深める場となりました。

来賓には、林正夫修道学園理事長、貞徳伸治同窓会副会長、田原俊



弘中惇一郎会長（高16回）の開会挨拶

典中学高校校長、太田英之近畿支部会長をお迎えしました。今年も、昨年と同様に約200名の同窓生が集まりました。これは、多くの皆様のご支援のもと、幹事学年である高校33回生に加え、13回、23回、43回、53回、次世代を担う63回の皆さんで準備を進めることができた成果であり、深く感謝いたします。

午後6時より始まった鼎談では、高63回の宮本知紘さん（元生徒会長）が司会を務めました。短編アニメーション映画「あめだま」が第97回アカデミー賞短編アニメーション部門にノミネートされたアニメ監督・プロデューサーの西尾大介さん（高29回）を中心に、藤崎圭一郎さん（高33回）、佐々木明さん（高33回）による鼎談「アニメの道を駆け抜ける―Dr.スランプからアカデミー賞候補作まで」が行われ、広島から美術の多田益也先生も、「ダイスケ！おめでとう。」と電話参加し、最後に3本立ての映画を毎週見続けた在学時の体験を踏まえた未来に向けてのメッセージで締めくくりました。

午後7時からは、関東支部の宮田二郎実行委員長（高33回）の開会宣言により、総会・懇親会がスタート。会計報告、弘中惇一郎会長（高16回）の開会挨拶に続き、来賓紹介、そして田原俊典校長の乾杯の発声で



鼎談「アニメの道を駆け抜ける ― Dr.スランプからアカデミー賞候補作まで」

懇親会が始まりました。ご来賓も含めた各世代が均等にグループ分けされ、自己紹介が始まると各テーブルごとに拍手が起こり、今回のテーマである「300周年、300人と知り合いになろう」に沿った同窓大会になりました。

会場を盛り上げたのは、スクリーンを活用した演出です。修道学園史研究会の畠真実先生、仲井正美さん、木村正勝さん、田中佳樹さんらが作成した「山田十竹物語（挿絵：高校33回卒 伊藤敦氏）」を古文の菅野泰久先生の音声によって山田先生が創成期を語る映像で始まり、次に「あ

んな修道（あんなところにもいる修道生）、そんな修道（そんなことにも挑戦する修道生）」と題した世界各地から60人以上の同窓生の画像、そして「千田町百景」では創始200年にあたる1926年（大正15）3月に帝人のガラス工場が移転しての「ガラ1」の始まりから、新校舎、現在の御幸橋が紹介されました。

さらに、特別企画「NEXT100」と題し、リオ五輪4×100mリレー銀メダリストの山縣亮太さん（高63回）が映像で出演。漫画「男子校の生感」作者のコンテくん、フランス国立オーヴェルニュ・ローヌ・ピニャ管弦楽団コンサートマスターの小島燎さん（高63回）、そして司会の宮本さんによるトークセッションが行われ、小島さんの素晴らしいバイオリン演奏と共に、修道の次の100年に向けた意気込みが伝えられました。

懇親会の中では、久保誠さん（高67回）より、2025年9月6日に開催される同窓大会の案内がありました。また、伝統ある米澤興譲館高校をはじめ、地元の広島女学院、広島附属高校、ノートルダム清心、広島学院より祝電が届きました。続いて、4月に開催された関東支部春季ゴルフ大会の成績発表として、個人戦では田丸雅康さん（高30回）、団

体戦では高校18回生の優勝報告がされました。

大じゃんけん大会では、9月11日の広島巨人戦ベアチケッツ、弘中会長の著書「無罪請負人」、「平山郁夫美術館招待券」、修道グッズなど多数の景品が用意され、盛り上がりました。

その後、次年度の実行委員への引き継ぎ（3の回から4の回へ）が行われ、最大のイベントである校歌斉唱に移りました。今年は、高校33回生の福富英明さんのリードボーカルのもと、会場が一体となって校歌を斉唱しました。最後に、稲田英一郎幹事長（高49回）の閉会宣言をもって、午後9時に盛会のうちに閉会しました。

本年の開催にあたり、修道学園、同窓会本部、同窓会近畿支部をはじめ、関係者の皆様には多大なご支援・ご協力を賜りましたこと、改めて心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

令和6年度修道学園同窓会 近畿支部総会・集いの報告

近畿支部

河本 浩二（高45回）

令和6年12月1日（日曜日）ホテ



総会での集合写真

ルグランヴィア大阪にて令和6年度総会・集いを開催しました。佛圓敏弘さん（高39回）の司会のもと、48名の同窓会員と3名のご来賓のご参加を得ての開催となりました。

記念講演では、同窓会近畿支部の有馬昌宏会長（高24回）から「自然災害にどう対応しますか？ 防災ドチャーズへの入団のお誘い」という演題でご講演をいただきました。令和6年は元旦から能登半島地震が発生し、災害への意識が高まった年でした。災害を避けることの重要性について、阪神大震災の具体的なエピソードも交えてわかりやすく解説

されました。参加者一同災害への備えの重要性を再認識できました。

全体の集合写真を撮影して総会へと移りました。令和6年に鬼籍に入った会員へ黙とうを捧げました。

有馬昌宏会長の開会の挨拶のあと、令和7年度からの近畿支部役員改選について協議しました。令和6年度までの有馬昌宏会長、都築英明副会長（高24回）、谷村典俊代表幹事（高30回）からそれぞれ太田英之会長（高31回）、佐藤宏介副会長（高31回）、佛圓敏弘代表幹事に交代する件を全会一致で承認しました。次に谷村典俊代表幹事による会計報告、林治令監事（高19回）からの会計監査報告を行いました。

その後ご来賓の方々からそれぞれご挨拶をいただきました。修道学園同窓会会長の深山英樹様（高12回）は有馬氏の御講演の内容やご自身の経験を踏まえて広島ガスの事情を含めて広島島の現状を、関東支部会長の弘中惇一郎様（高16回）は同窓会の経（たて）と緯（ぬき）について同期のつながりと世代を超えた交流を、修道中高校長の田原俊典様は修道中高が海外からも高く評価されているといううれしいニュースをそれぞれお話しくださいました。

こうして総会は問題なく終了し、集いを開始しました。

吉井聖三さん（高16回）の音頭による乾杯ののち、参加者によるスピーチでそれぞれが自分の近況や思いを語りました。

アトラクションでは、世良京太さん（高65回）、山本翔太さん（高71回）、鎌田直稔さん（高72回）によるジャグリングが披露されました。昨年からはメンバーが増えてパワーアップした演技を一同楽しみました。近藤達夫さん（高29回）は海外出張のため動画で美声を披露されました。

食事の後のお楽しみ抽選会では、ピーコック魔法瓶のタンブラー、おつまみセット、関東支部会長の弘中惇一郎様のサイン入り著書、修道生をモデルにした漫画本「男子校の生感2」、秘蔵の焼酎や洋酒などの景品で大いに盛り上がりました。その後は、太田英之さんのエールをした後、参加者一同で円になり肩を組み、世良朋孝さん（高35回）のリードで校歌を斉唱し、同窓生一同で一体感を感じました。

最後に都築英明副会長が閉会の辞を述べ、山本翔太さん（高70回）の音頭による万歳三唱で集いを終了しました。

当日は、ホテルでのフルコースの美味しい料理を堪能しながら、同窓生同士の楽しい会話に花を咲かせることができました。久しぶりに再

会した仲間たちとの思い出話や近況報告に、笑い声が絶えないひとときとなりました。

令和7年度 新入生歓迎ミニ交流会の報告

近畿支部

河本 浩二（高45回）

2025年5月11日、しゃぶしゃぶ食べ放題 空で修道学園同窓会近畿支部の交流会を開催しました。今回は新たに近畿支部の仲間になった会員を含めて大学生の参加が多く、高校76回18名、高校77回19名を含む48名で執り行われました。

まずは太田会長の歓迎の言葉の後、佐藤副会長の乾杯の音頭で食事が始まりました。とんかつや唐揚げといった人気メニューに加えて、牛と豚のしゃぶしゃぶ食べ放題という男子大学生にとってはかなりうれしいメニューだったと思います。時節柄76回、77回は烏龍茶、コカ・コーラで盛り上がりました。

会の半ばで新入生から一言ずつ自己紹介をもらいました。「朝、起きられない」「自炊が続けられない」「女の子と話せない。」など、時代は変わっても修道生の悩みは変わらないと感じました。一方社会

人からもそれぞれの経験を踏まえてメッセージを送りました。若手にとってこれからの人生に役に立つ内容だったのではないかと思います。

なかでもマジシャンビリーこと副島雅之さん（高29回）は軽快なトークと見事な手品を披露してくださり、若手の心をわしづかみにしていました。また、有馬前会長（高24回）からは防災アプリについて解説してもらい、社会人の会員も含めて日頃忘れがちな災害への意識を新たにしました。大学生たちも修道OB



集合写真

が各方面で活躍していることを実感してくれたのではないのでしょうか。最後は太田会長のエールの後、修道校歌を斉唱して大盛況のうちに会は終了しました。

今後も修道学園同窓会近畿支部では様々なイベントを企画していきますので皆様もぜひご参加ください。

九修会総会

（令和6年11月17日）報告

九修会

石本 俊亮（高27回）

令和6年の総会は、令和5年同様に学園同窓会事務局よりいただいた九州地区への進学者を迎え11月17日に開催いたしました。

当日は、田原学校長、深山同窓会長をお迎えし、九修会会員17名、進学者16名に加え、300周年同窓大会世話人である久保様に参加いただき、合計36名で盛大に行う事が出来ました。

会の冒頭では、田原学校長、深山同窓会長からの学園や広島状況について紹介いただきました。学生会員にとっては、懐かしい話が多かったようです。

その後、近藤九修会会長より同窓大会の紹介があり、当時の国土交



九修会総会：R6年11月17日博多八仙閣本店にて

通大臣であった斎藤大臣の出席なども報告されました。また、令和7年の300周年行事に関しては久保様より紹介があり、多数の出席を依頼されました。

その後、各自の現状報告を行いました。その中で、近藤会長の同級生で広島に戻られた中川様より米国留学の話をしていただき、進学者へ外に出ることの大切さなどを語られていました。学生の皆さんからは、休みに自転車で広島に戻ったことや、大学の学園祭の実行委員を務めている事など、元気に大学生活を送

られている事を報告いただきました。
最後に校歌を全員で歌い会を終
りましたが、万歳三唱を忘れてい
るとのご指摘をいただき、反省した
次第です。令和7年では、忘れずに
行いたいと思っています。

東部修道会からの報告

東部修道会

前原 敬悟（高20回）

東部修道会の年間行事の中で、
一番重要なのは秋に行います東部修
道会総会です。当会は平成元年に発
足したので、平成年数と開催回数が
同じで開催していましたが、コロナ
ウィルス禍により2年間開催できず
開催回数がずれてしまいました。

昨年（2024年）は10月26日
（土）に第33回東部修道会総会を福
山ニューキャッスルホテルで開催し
ました。修道高校校長田原俊典様、
修道学園（中・高）同窓会会長深山
英樹様（高12回）、特別ゲストとし
て近畿支部会長有馬昌宏様（高24回）
にご出席をいただきました。そ
して特別講演として酒井まる様（高
36回）を招いて「情緒溢れる都々逸
の世界 他、粋な御座敷唄遊びあれ
これ」と題して都々逸を聞かせても
りました。酒井まる氏は吉川晃司

氏のバックバンドのドラマーでもあ
ります。

また東部修道会総会では、女性
が座っているテーブルがあります。
修道高校33地区会の現役生の父兄を
招いています。ほとんどが現役生の
お母さん方で、華やかな雰囲気
のテーブルであります。昨年は9名
のお母さん方が出席してくださいま
した。

年1回の総会とは別のイベント
として、マツダZoom Zoom
スタジアムのパーティーベランダ
（150席）でカープ観戦ツアーを



総会での集合写真

行っております。今年は5月4日大
型バス2台貸切＋現地集合で中日戦
の応援に行きました。9・4で快勝、
末包、山足が活躍し4回打者一巡の
猛攻撃には皆さんのビール消費が進
んで会計担当が青くなりました。東
部修道会のカープ観戦勝率は3勝1
敗と記憶しています。このイベント
には33地区の現役生を無料招待して
います。現役生の父親が修道同窓生
として参加された親子同窓生の組も
ありました。今年の現役生参加は6
名でした。

東部修道会地区内の神石高原町
光信に光信寺というお寺があり、毎
年8月に修道高校2年生の「東大京
大セミナー合宿」が行われます。東
部修道会では、何らかの応援をした



酒井まる様（高36回）による講演

いと思い、昨年は合宿所に10kgの
牛肉を届けて、カレーライスを提供
してもらいました。かなり美味しく
しつかりお代わりして食べてもらっ
たとの報告をいただき、うれしく思
いました。今年も差し入れる予定で
す。

東部修道会は、倉敷、岡山も範
囲に入り、岡山ブロックとして年1
回（11月頃、岡山市内）集まって親
睦を深めています。その他、年末に
は忘年会を行っております。

今後も母校の発展のために、同
窓生としてできる限り応援したいと
考えています。



カープ観戦の様子

江能修友会 活動報告

江能修友会

山下 江（高23回）

江能修友会は、平成7年7月7日、江田島・能美島（江田島市）からの船通学者を中心とした修道高校OBで結成されました。この令和7年7月、創立30周年となりました。それを記念して、同年6月22日（日）、江能修友会創立30周年記念総会・懇親会が江田島市沖美町のリゾートホテル「ウミノス」にて開催され、20数名が参加しました。田原校長先生と同窓会貞徳副会長も駆けつけていただきました。感謝します。

事前の予報では雨でしたが、同窓生のパワーで、何とか終了までは持ちこたえ、青空も一部見えました。

総会では、活動報告として江能修友会のサイトが立ち上がったことなどが報告されました。サイトは、<https://enoujindofree.com/>

是非、ご覧ください。また、役員選出も行われ、私が会長に再任されました。

その後、懇親会では、田原校長先生から、現在修道生の指針となっている「修道ベーシックルーブリック」の説明がなされ、他の学校の見本になっているなどのあいさつがあ

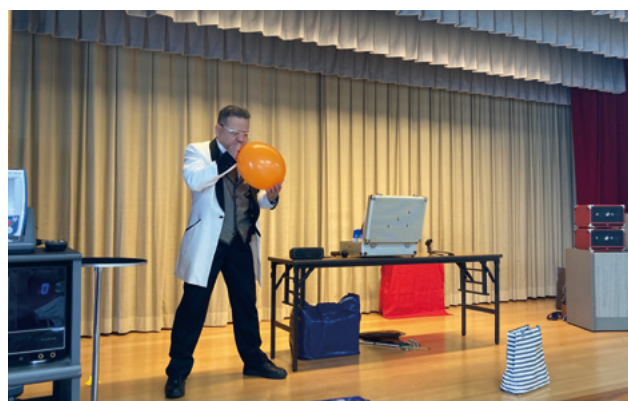
りました。同窓会副会長からは、目標を達成した寄付のお礼と創始300周年記念事業への呼びかけがなされました。

飲食しながらの歓談の途中で、コバックによるマジックショーが行われました。

4人の参加者が適当に選んだカードの合計があらかじめ封筒で渡された数値に合致。また、数字の並びが「20」「25」「06」「22」となる。あるいは、紙を切り刻んだものが本物のうどんに変わる、など、びっくりすることばかりでした。



総会終了後、ウミノスの前の浜をバックにして集合写真



コバックは、修道高校33回生の小林克至君

その後、参加者は、中高時代の思い出や近況などを順番に報告するなどしました。最高齢は3回生で93歳。「原爆投下の日は、たまたま自宅待機だったので、助かった。」と当時のできごとを話されました。また、他の参加者は、船が宇品港の桟橋前で沈没したことや個性的な先生の思い出などを話されました。懇親会を深めることになりました。

江田島・能美島（江田島市）に関係のある修道高校同窓生は、ぜひ入会していただければと。楽しいときを過ごすことができます。上記サイトからご連絡ください。

修道医会令和6年度

（第68回）総会 報告

修道医会

松本 正俊（高42回）

修道医会は修道学園を卒業し、主として広島県内で医師として活躍している方々の集まりであり、会員数は現在987名です。昭和31年7月1日に発足して以降、毎年1回の総会、ゴルフ大会、家族会（野球観戦）等を催しています。平成20年から学生部会をつくり（現在会員数51名）、広島大学医学部の在学生にもよびかけて部会としての活動を行っています。

今年度の総会は、令和6年7月27日（土）ANAKラウンプラザホテル広島にて開催しました。午後4時30分からの評議員会・総会において、令和5年度の事業報告や決算報告、令和6年度の事業計画と予算承認が行われました。第25回学術奨励賞は吉田雄介先生（高56回…広島大学リウマチ・膠原病科）が、“Seasonal Influence on Development of Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis: A Retrospective Cohort Study Conducted at Multiple Institutions

in Japan (J-CANVAS)”の論文業績で受賞されました。第23回社会功労賞は受賞者2名で、森本忠雄先生(高25回・森本医院院長)、西田和郎先生(高27回・西田医院院長)が、長年にわたる地域医療への貢献、多数の活動において地域の活性化に取り組まれたことで受賞、第14回文化功労賞は梶川博先生(高9回・医療法人翠清会会長)が、高齢者医療、老年医学、高齢者福祉の領域で精力的に執筆をつづけておられ我が国の国民福祉の向上に貢献されたことで受賞されました。

次いで午後5時30分からの特別



総会での校歌斉唱

講演(i)では漫画家の「コンテくん」氏(卒業回非公開)より、漫画『男子校の生態』ができるまで、と題したご講演を拝聴し、特別講演(ii)では、岐阜大学長の吉田和弘先生(高29回)より、変革を遂げる東海国立大学機構・岐阜大学——地域中核大学としての役割と地域共創——と題したご講演を拝聴しました。

午後7時から懇親会を開きました。会長の板本敏行先生(高28回・県立広島病院院長)のご挨拶に引き続き、ご来賓の林正夫修道学園理事長、深山英樹修道学園(中・高)同窓会会長よりご挨拶いただきました。さらに前述の3つの賞の表彰と受賞者の謝辞がありました。続いて、新たに教授に就任された広島大学病院急性期リハビリテーション地域連携研究講座の石井良昌先生(高33回)にご挨拶いただき、院長就任のご挨拶を柴田諭先生(高36回・独立行政法人国立病院機構 東広島医療センター)にして頂きました。その後、学生部会部会長の挨拶、校歌斉唱後に井原俊彦先生(高13回)より万歳三唱の音頭をいただき、最後は副会長の石橋克彦先生(高33回)の閉会の辞で盛会裏に会を終えました。

今年もこの会により修道健児の心意気を示すとともに、今後の各分

野での個々の活躍と修道同窓生としての連携を確認した次第です。

第61回広島修道歯科医会総会

広島修道歯科医会

毛利 雅哉(高31回)

令和6年11月9日(土) 午後4時より「ANAクラウンプラザホテル広島」において、第61回広島修道歯科医会総会が開催されました。

総会は久保康治専務理事(高37回)の司会進行で行われ、物故者への黙祷に続いて川原正照会長(高27回)より出席した会員への挨拶があり、庶務、会計、監査より年度報告が行われました。今年度の協議としては、修道創立300周年が来年に迫り、本会としても学校に記念品を贈ることが全会一致で決定しました。また、本会の会誌である「修志」について、次号の制作に向け準備をお願いしたい旨の要望が会長からありました。

引き続き、講演会となり、今回は県立広島病院院長の板本敏行先生(高28回)に「外科医になって41年目、色々なことがありました」と題してご講演いただきました。板本先生は大変ご高名で、我々歯科医でも様々な場面でそのお名前を聞く先生



総会での集合写真

です。また、県病院の広報誌のコラムニストとして文筆家としても知られておられます。41年間の外科医としての経験から感じた様々なことをユーモアを交えて語っていただきました。医療とコミュニケーションの問題、「働き方改革」の時代に日本の将来の医療は大丈夫なのか、その内容は私達にも示唆に富む講演でありました。

その後、記念撮影をはさみ午後6時から懇親会が開催されました。来賓として田原俊典校長にお越しいただき、母校の近況や子供人口の減

少によりいよいよ私学経営は大変になっていくのではないかとのお話を伺いました。また、修道創立300周年に向けご協力をいただきたいとの要望もありました。和氣満々とした雰囲気での懇親の宴を楽しみ、最後に全員で輪になって校歌を歌い上げ、修道魂を確かめました。

午後7時30分、毛利雅哉副会長（高31回）の閉会の辞をもって日程を終了しました。

令和6年度

広島市修道会 活動報告

広島市修道会

長田 開（高67回）

広島市修道会は、広島市役所に勤務する職員のうち、修道中学・高等学校及び修道大学の卒業生約310名を会員として構成しており、同様に卒業生の市議会議員の先生方にも顧問として入会していただいています。

例年は、総会及び懇親会（これには御来賓として修道中学・高等学校と修道大学から、それぞれ校長と学長の御臨席を賜っております。）のほか、役員会や幹事会など年数回程度会員が顔を合わせ、在学時代の



母校伝統の応援歌を熱唱する若林顧問

思い出を語り合いながら親睦を深める機会を設けており、市役所の中でも歴史の長い同窓会として活動を続けています。

昨年度は令和7年1月30日に広島市文化交流会館にて総会及び懇親会を開催しました。当日は、御来賓として修道中学・高等学校より田原校長、修道大学より矢野学長に御臨席を賜り、顧問である市議会議員6名を合わせて総勢54名の参加がありました。

総会では、会計・監査報告の後、人事異動に伴う役員の変更等についての議題審議があり、満場一致で承認されました。

続いて行われた懇親会では、田原校長、矢野学長に学園の近況も交

えた御挨拶をいただきました。会員の多くは、卒業後に学園について触れる機会がほとんどないため、中学・高校、大学ともに今もなお発展し続けている近況を聞くことができ、在学時代の思い出に浸るとともに、大変誇らしい気持ちでいっぱいになりました。公私とも御多用の中御出席をいただき、心温まる御挨拶をいただきました。田原校長、矢野学長のお二方には、この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。

会員が毎年楽しみにしているピング大会では、広島の特産品で特に優れたものとして認定されている「ザ・広島ブランド」の商品やカープ・サンフレッチェのグッズなどの景品を用意しました。さらに、今回は新たな試みとして母校や広島市にまつわるクイズを出題し、テーブルごとのグループで答えを考えてもらいました。問題は卒業生でも簡単に正解が出ないように考案したつもりでしたが、皆様が活発に意見交換される姿があり、想定以上に高い正答率でした。

また、若林顧問からの御提案で、急きょ壇上に上がり、母校伝統の応援歌を力強く歌い上げてくださいます。その熱唱に会場は大いに盛り上がり、参加者一同から歌に合わせて手拍子が湧き起こるなど一体感が

生まれ、同窓の絆を再確認する象徴的な場面となりました。

昨今は、市役所内でも個人情報保護の取扱いについてはデリケートな問題になっており、新規会員の勧誘がなかなか難しい状況にあります。しかしながら、市役所という大所帯の中で、同窓の先輩後輩が一堂に会し語り合う機会は非常に貴重であるため、今後とも会員が楽しめるような様々な企画にチャレンジし、若手会員を増やすとともに、広島市修道会を更に発展させるよう努めていきたいと考えています。

※ 後日談となりますが、この懇親会で同じテーブルを囲んだ矢野学長と平野顧問の間で、大学において令和9年4月に農学部（仮称）設置を構想中であるという話をきっかけに、平野顧問から大学に対して地域の特産品である観音ねぎの種を提供し、今後の教育・研究などに役立てていただくという話が進められました。このような交流・協力の芽が生まれたことは同窓の縁がもたらすもので、今後ますます広がっていくことを期待しています。



平野顧問から矢野学長に観音ねぎの種を手渡す様子（令和7年7月15日）

修道と共に七〇年

島 眞實（高7回）

昨年、卒業生の同期会などの集まりで、この表題と同じ題で話す機会があった。どうして七〇年なのかである。七〇年は、わたしの人生において約八割りである。中学校・高等学校の生徒で六年、教職で四十五年。これで五十一一年。あとの一九年は、修道に関する勉強をしたことによる。そのきっかけは二〇〇四年三月末で退任して間もなく、山田養吉先生のご遺族から先生の遺品を多く寄贈していただいたことであった。

この遺品の中に先生の日記が多く含まれていた。すでに学校にも先生の日記は保管されており、「修道の開祖の恩人」の日記を読みやすくしたいという思いがあった。この寄贈をきっかけにして翻刻に取りかかろうと決意をしたのである。



高校16回(1964年3月卒業)
卒業アルバム3年1組ページより

先生は、漢学者で日記はすべて漢文である。訓点の施されていない白文で書かれている。訓読も書かれた事項の解説も浅学のわたしには容易ではなかった。読み違いがあるのではという不安を覚えながら、やつと昨年末、明治三十三年・三十四年の日記を最後として終えることができた。すでに二〇〇年を経過していた。

そしてもう一つ。二〇〇六年に元事務長の仲井正美さんの発案で遺品の寄贈を機に学園の歴史をもう少し調べようということになった。そこで退職された歴代の事務長さんと呼びかけて修道学園史研究会なる会を立ちあげた。学校の協力をいただいて二〇〇六年から昨年まで一八年間にわたり研究会を開くことができた。研究会の記録を昨年四月、学校に寄贈することができ、会員が共に喜ぶことができた。以上述べた期間も修道に関わったものとして七三年になる。そういう訳で「修道と共に七〇年」とさせてもらった。

昨年、卒業生の同期会で、わたしの米寿の祝いをしていただいた。そのとき、質問を受けた。「先生は、どうして修道の教師になられたのですか」と。それに対して、まず一つは、広大附属中学校の入学試験に不合格になったことだと答えた。戦後あまり時が経っていない頃であり、第一次の筆記試験もごく簡単で、次

は、福引きするような抽選であった。くじ運悪く落ちた。それで修道中学校を受験することになった。入学試験は現在のような本格的な筆記試験ではなく、簡単なテストと口頭試験だった。驚いたのは、「あなたの上半身の自画像を描きなさい」という問題があったことである。めでたく修道の門をくぐることができた。

もう一つの理由、これが大きな理由である。修道中学校の一年の学級担任であった景山英俊先生に電車の中でお会いしたことだと、答えた。その時は、以下のことを簡単にして答えた。わたしが広島大学の四年の秋のことであった。千田町の大学前から宇品行きの電車に乗った。当時、宇品に住んでいた。御幸橋の停留所から景山先生が乗って来られた。お会いして「きみは、もう卒業ではなかったかね」と尋ねられた。「そうです」と答えると、いきなり「修道に帰ってくる気はないか」と言われた。驚いた。すでに公立高校



高校39回(1987年3月卒業)
卒業アルバム3年6組ページより

の教員用試験を受けていた。広島県をはじめ、近県の試験も受けていて次年度どこかに採用される見込みもあった。突然のことなので即答できず、「考えさせてください」と答えた。それからしばらく先生のお言葉を熟慮した。そして修道の教師になった。

先生は八本松の神社の神官もされておられ、八本松駅から通勤されていた。広島駅から電車に乗り継ぎ、比治山経由での帰途であった。専売公社前で下車されるまでの、わずか五分足らずの時間であったが、わたしにとっては、忘れることのできない、運命的とも言える再会であった。後に校長に就任して八本松のご自宅にご挨拶に伺った。先生は体調の加減で床に就かれておられたが、「きみが校長にねえ」と言って喜んでくださった。

修道十日会

修道学園創始三〇〇周年記念
卒業六七周年同期会

池本章（高10回）

毎年恒例の同期会開催日4月3日午前中、本年は修道学園創始三〇〇周年に当たり、記念事業としての中高本館立替等工事がほぼ出来上がっているので母校訪問し、見学した。竹川前事務長、池田新事務長、



卒業六十七周年同期会 集合写真

同窓会事務局の小島さんに新本館・新敬道館・図書館・記念室・コンビニ等案内していただき、昭和27年入学し、被爆の跡がまだ残っている学園で学んだものから見てただただ羨ましい限りです。柔道場を見学した際、赤毛君は自分の名札が掛けてあるのを見つけ感激するひとこまがありました。青春が一度に戻ってきたのでしょうか。「修道蹴球のあゆみ」碑の前で記念撮影（本年度同窓大会誌に掲載）を終え、正午から「半べえ」で38名が集い（前回は出席者40名）開催した。重森三玲作の庭園で桜花のもと記念撮影をすませ、開会した。黙祷の後（この一年間で5名逝去）、世話人代表高木君の母校の近況報告、創始三〇〇周年記念事業への寄付金のお礼・お願いの挨拶が

あり、遠来の戸田君の乾杯発声の後、歓談にいりました。小滝君は尺八の演奏で会を盛り上げてくれました。県外からは北海道から八島君、関東から山本修也君、中部から戸田君、関西から赤毛君、田邊君、平石君の六人、遠方よりの参加ありがとうございました。二時間半はあっという間に経ち、林一之君の校歌斉唱、東君の締めで、一年後に再会を約し和気あいあいのうちに散会。また、竹川前事務局長・池田事務局長・同窓会事務局小島様には母校の案内・開催の案内をホームページに掲載、記念絵はがき・封筒・会誌を頂き、修道後輩の「半べえ」金井社長には送迎・設営等何から何までお世話になりました。誌上を借りて厚くお礼申し上げます。

多様性こそ宝

高木 一之（高10回）

修道高校を卒業して67年。人格形成の一番大事な時期を修道で過ごせたことに心から感謝しております。

〈中学時代寸描〉

修道中学に入学したのが昭和27



年4月。当時は原爆の傷跡も色濃く残っており、千田地区も裏通りに入ると建物の基礎部分だけ残して廃墟のままという場所もいくつか残っていました。軍隊帰り、坊主頭の先生もおられ結構怖かった記憶があります。

私は自転車通学でしたが、真冬でも手袋禁止、マフラーも駄目。まさに質実剛健？を地でいく時代でした。校舎はすべて木造。雨漏りも結構あり雨が降ると「移動！」という先生の号令で各自机を持って雨漏りのしない場所に集結して授業を受けておりました。当時の面影が残っているのは今やプールとグラウンドの位置のみ。隔世の感があります。

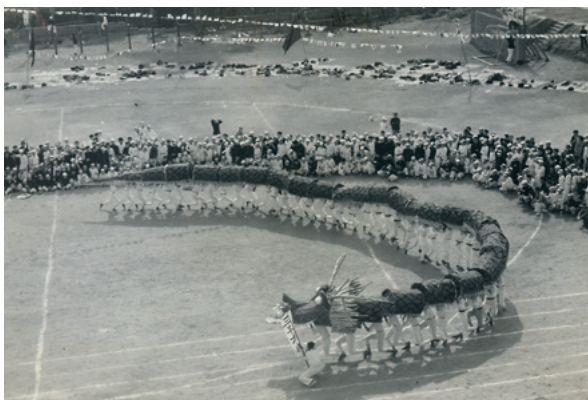
とにかく中学時代は勉強よりも遊んだ記憶しかありません。今の中学生に比べ全くの子供。幼稚な中学生だったと思います。

〈高校時代寸描〉

当時、塾はありませんでしたが、高校生になると徐々に大学受験モードに入り、あまり楽しい思い出はありません。

高校時代の思い出は高3の時の運動会。クラス単位で仮装行列（私のクラスは「長崎の蛇踊り」）に参加するため、必死で練習に取り組

成功裡に終えたことが懐しく思い出されます。



高校3年 運動会 仮装行列「蛇踊り」

中高6年間を終えていよいよ大学受験。生まれて初めて革靴を履き、コートを着て上京。当時は新幹線もなく、東京まで急行「安芸」で18時間半かかっておりました。俄か仕立てのシティーボーイ勇躍上京といったところでした。

大学卒業後28才で東京から広島へUターン・再就職。幸いにも倅せなビジネスライフを送ることができました。そこで感じたのは修道ネットワークのすばらしさ。仕事だけでなくあらゆる分野に存在する絆の強さ。改めて修道の良さ、歴史の重味を実感しました。



高校2年 宮島にて

中学卒業4組の2回目のクラス会を開催しました。

私たちは1958年高校卒業の第10回生に当たりますが、高校卒業者の同期会の十日会や高校時のクラス会ではそれなりに出会うことはありましたが、中学のクラスでは3、4人程度での集まりはよくあったものの全体でまとまって集うということはありませんでした。やっとこぎつけた開催までの思いやそれまでの経過を紹介したいと思います。

考えてみると修道に在籍した6年間の中で3年間という一番長い時間を一緒に過ごしたのが中学時代のメンバーで、一度集まってみようという声が上がるのもっともではあります。全員が80歳を超え、同年代のクラス会などが取りやめになる話をよく聞く中で初めて集まるというののも意義のある試みではないかということ。5年前第1回目のクラス会の準備に取り掛かりました。

しかし、卒業以来実に65年ぶりの初めてのクラス会、まず行き当たったのが案内を出そうとしても名簿がないことでした。

学校にも中学の名簿はないというところで、高校の同窓会会員名簿をもとに入学時の写真や59名が写っている卒業写真などを手掛かりに中学校4組のメンバー数人で名簿の作成に取り掛かりました。名前と顔が思いだせない人もあって大いに苦労し

ましたが、十日会の世話人池本章君にも協力してもらい、何とかリストアップし案内状を準備しました。その時点で59名のうち物故者23名消息不明6名という状況でした。

第1回目は集まりやすさを考慮して2020年4月の十日会開催時に2次会として開催することで案内した結果、2年と3年時の担任 小田(旧姓久保田)和麿先生(旧制中学35回卒)と遠方・体調不良などで参加が難しいという人を除く15名の参加確認を得ました。

ところが前年の12月中国で発生したコロナウィルス感染症の広がりによってあらゆる行動自粛が求められるという緊急事態に見舞われ急遽開催延期を余儀なくされてしまいました。

それでも一度集まりたいという思いは強くイベントの開催制限が条件付きで緩和された秋口に集まれる者だけでも開催に踏み切りました。用心して不参加という人もあり、当初予定から先生と3名の離脱があり広島在住の12名の会になりました。初めての会は2020年11月29日メルパルク広島アストラルに集まりました。

会場はコロナ対策が施され一人ずつ離れた席で少し違和感のあるものでしたが、久しぶりの再会を大変楽しく過ごしました。

その後4年が経過、その間に前

回出席した仲間の計報や小田先生が95歳で逝去されるなどがありました。が、もう一度やろうということ。集まったのが今回の2回目です。

前回と同じメルパルク広島アストラルに集まった顔ぶれは初参加の2名を加え11名、今回は神戸から赤毛 浩治君が駆けつけてくれました。

また、少し歳を重ねたかなという面はありましたがみんなまずまず元気で、初めて参加した田島 恒君が「古事記」を下敷きにして上梓した「一寸法師殺人事件」を全員に提供してくれたほか、中学時代の入学・卒業写真や臨海学校、林間学校などの写真を前に久しぶりに近況を語り合う中で自然に休憩時間に相撲やサッカーをしていたとか70年前に

1955年修道中学卒4組 クラス会 開催のこと

中丸 建二(高10回)

2024年11月22日1955年



後列：伊藤 勝 赤毛浩治 田島 恒 清水裕弘 江川国昭 川口武朗
前列：中丸建二 浜中正三郎 大角正昭 山本 質 高山岩雄

話がタイムスリップして大いに盛り上がりました。

高山 岩雄君が同窓会事務局からいただいていた会報、学園通信、学校案内も見ながら改めて修道のつながりを強く再認識したクラス会でもありました。(修道万歳！)

終わりには次回3年後米寿になるときにまた集まろうということでした別れましたが・・・それまでみんな元気でいたいものです。

「米寿の秋

再会を期す

クラス会」

二十五年目を迎えた月例 「修道火曜会」

曾爾 征男 (高14回)

私達高校一四回生は、同期生交流の場として、新年会、ゴルフ会その他、毎月第三火曜日に「修道火曜会」を開催しています。

二〇〇一年五月に発足して以来、二十五年間、コロナによる自粛期間を除き、総開催回数は二六七回に及んでいます。

この会の発案者は、広島平和記念資料館に設置された「地球平和監視時計」の推進者でもある故土井淳夫君です。当時五十代半ばの私達が、



2017年12月、200回記念を迎えた月例 修道火曜会

「社会人としてこれまで取り組んできた仕事や趣味等をお互い披露し合おう」という趣旨でした。この会のメンバーは約四十名ですが、各回の参加者は十数名程度です。

場所はスナック「わいわい」で、午後七時～九時（現在は六時～八時）。軽く食事を済ませ、その日のスピーカーの方から話をお聞きします。参加メンバーから質問や感想が飛び交い、楽しい歓談の時間となります。

最後に集合写真を撮り、全員で唱歌「ふるさと」を歌って閉会します。何故、「月例修道火曜会」が、二十五年も継続出来たのか。いくら仲の良い同期生といっても、毎月、

ただ集まって情報交換するだけでは長続きしません。会員がスピーカーとなる会も限度があります。そこで、浜野会長、津島幹事長はじめ、全会員の人脈をフル活用して、講師をご依頼してきました。

修道の恩師、先輩、後輩はもとより、外部のさまざまな職種の方々から、お話をお聞きしました。例えば、僧侶、神主、弁護士、税理士、医師、信用金庫職員、元海上自衛官、南極越冬隊員、海苔漁業者、マジシャン、元アナウンサー、演歌歌手等々の皆様方です。

安田女子大の友末先生（二七回）には、学内から多数の講師をご紹介頂いております。様々な研究分野から、わかり易いテーマを選んで、お話いただいております。

傘寿を超えた私達ですが、健康寿命が続く限り、同期生との楽しい交流の場を続けたいと念じております。

司会者として 同窓大会をふりかえる

本名 正憲 (高33回)

2学年上、つまり31回の先輩から「同窓大会の司会をお願いしたい」との連絡があったのは局アナとしてRCCに入社して3年目くらいだった

たかと思えます。以来コロナ禍で不開催となった年をはじめ数回を除いて毎年司会の大役を仰せつかっております。まことに光栄なことです。今回寄稿させていただくにあたり、少し同窓大会の思い出など振り返ってみようと思います。なお記憶違いもありそうですが、お許し頂ければ幸いです。

90年代、当時会場は今なき広島グランドホテル。宴会場をぶち抜き、旧中、中高に加え広島商大（確か短大の先輩もおられた）に修道大と、とにかく「修道ファミリー大集合」といった具合で、それは大変な人数だったと記憶しています。それぞれの学び舎の代表が旗手を務め、スクールバンド班の「鯉城の南」をバックに入場、華々しく開幕という段取りでした。まだまだ駆け出しのアナウンサーだった私はその雰囲気圧倒され大いに緊張したものでした。

今は中高卒業生のみで、基本的にはアトラクシオンのなものもないシンプルな構成ですが、かつては趣向を凝らした出し物がありました。お楽しみ抽選会、OB落語家の高座やマジックショーとか。吉川晃司さんのスペシャルライブも盛り上がりましたね。今年は創始300年の節目ということで、関連行事も楽しみです。

ハブニング(?)もありました。

あれは90年頃だったか、来賓の故荒木武先輩（当時広島市長）の「祝辞」と私は聞いていたのですが荒木さんは分厚い原稿を取り出され、ご自身が尽力された94年広島アジア競技大会の進捗状況について延々報告されたのでした。その間おそらく10分、いや15分は経過したでしょうか。しまいには乾杯におあずけを食った後方の同窓生からため息が、なんてこともありました。

変わらないのは恩師、来賓に続き卒業回順に前の方からテーブルが用意されていること。したがってステージ横の司会の私に一番近いのが最も年長の先輩方。開会前に「今年も頑張つてね」など励ましていただくのですが、そのお姿が年々少なくなっていくのは寂しい限り。一方でたくさんの方々の姿は眩しく頼もしく、本当に元気づけられるものです。

さて今年は何年か300年。30年くらい前になると思うのですが、PTAの会報だったか寄稿を依頼されました、たしかこんな一文で締めくくった覚えがあります。

「修道は政治家、財界人、研究者、芸術家など幅広い分野で活躍する人材を輩出している。それゆえ単なる進学校ではない。『名門校』なのだ」つまり修道の名を高らしむるか否かは進学成績ももちろんあるけれど、卒業後の生き方にかかっている



ゲストが修道OBということも
写真は2025年4月、学校生活をコミカルに描いた『男子校の生態』
著者、コンテくんとスタジオにて

と言いたかったのでしょうか。とても成績優秀とは言えなかった自分の言い訳でもあります。3世紀に渡って先輩たちが築いてきた伝統を受け継ぎ磨きをかけ次世代に渡すのは卒業生。つまりわしらは生涯修道。修道魂は不滅なのです。

最後にひとこと。メディアに關わっていて感じるのですが、今社会から寛容さがどんどん失われてきています。SNSの普及は大いに歓迎すべきことではありますが、例えばそこに見られる言論空間は豊かなものばかりとは言えません。自分こそが「正義」とし意見を異にする者を「敵」「悪」とみなし対立を煽る風潮です。広島でも自治体の首長と議会との不毛な対立が深刻な行

政の機能不全を招きました。自国第一主義のトランプ政権は世界に分断を拡散しつつあります。「知徳併進」と「責任ある自由」。このよき伝統を誇る修道学園が、他者を思いやり実りある寛容な社会をつくる人材を世に送り出すことを大いに期待するものです。

修道生から産婦人科医師へ

香月 孝史（高39回）

高校39回卒、卒業後40年近くなると思います。修道学園には大変お世話になります。現在の交友関係も修道繋がりが多くを占める生活です。周りの修道関係者方々には、大変お世話になり、私の人生において最も大事にしている一つと言っても過言で無いです。中高校生時代には、多くの不祥事を起こし、常に首の皮一枚と脅やされ、最後は恩師方に助けられ卒業できました。感謝しかありません。修道の良さは、どのような人物でも見捨てず、長所を伸ばし、個性を尊重する校風だと思います。

医師として、多少の実績を残せたように見えるかもしれませんが、しかし、これまでの道のりは、本当に辛い日々で、山谷の連続です。私のクリニックでは、これまで2万4000例以上の出産を担ってきました。不



妊治療では6000例以上の妊娠例に成功しています。24時間365日、二つの命を扱う仕事は、心底プレッシャーがかかります。救急搬送は日常で、Babyや母の死の経験も。心技体を研ぎ澄ませなければこの仕事をやっていけません。医師の仕事は科により様々ですが、外科医の共通点は、自分の判断で人間に對し、メスを使い、人体を切る仕事であることです。目の前の一瞬で起こる変化や出来事に対し、判断力、決断力、行動力を持ち、執刀しなければ成りません。医学は常に進化していますので、勉強を怠らず、目標は常に大きく、高く持つておりました。現在の私は、学生の頃の目標の1/10しか達成出来てないと思いますが、凡人は所詮そんなもん。どうせ達成で

きないと思うくらいの高い目標を掲げ、少しでも近づく努力を惜しんで参りました。研究者であれば世界で認められる、臨床医であればその地方で一番の名医になるぐらいの気持ちを持ち。私は、医師として、30年になります。修道から医学部を目指す学生へ（息子様など）。40年前、同期で医学部合格約40人程度（広大25名、国公立12名、私立2〜3名）。国公立でなければ医学部でないという風潮がありました。現在は、東京近郊の地方まで、私立医学部がとも難しくなり、40〜50倍の倍率です（当時15倍程度）。広島医師会や病院長や教授などは、多くの修道士で占めておりましたが、最近では、G男子高校やS女子高生の割合も多くなり、肩身も狭くなって参りました。また、外科医、救急医、産婦人科などの夜間に仕事がある科は、希望者が少なくなり、美容を専門にするドクターが増えている現状です。30年前と医療は劇的に変化しています。私の専門でいえば、体外受精、ロボット手術、AI診断、無痛分娩、ピルの普及、堕胎薬などが当たり前になりました。この先の医療費の増額を見込めない現状、今後は、希少価値の高いドクターになることは重要です。また、対面診療だけでなく、様々な工夫にて医療に貢献し、報酬を得るシステムを考えるべきでしょう。修道士の皆様は、頭脳だけ

でなく、やる気、体力を兼ね揃えている若者が多くいます。是非、日本の将来の医療を支えるドクターを目指し、志を高く持ち、将来を見据え全霊全身込め邁進し、医療界へ貢献下さい。

恩師に感謝

片上 大輔（高52回）

将棋のプロを目指して奨励会（棋士の養成機関）に入ったのは、12歳になったばかりの頃だった。月に2回、新幹線に乗って大阪に通う生活が、小学生にしてスタートした。

将棋の世界に学業は必要ないのだが、先々のことを考えて中高一貫



校を受験することにした。本当は親戚の家のすぐ近くにあった甲陽学院に入りたかったが学力が足りず、地元で広島学院と修道を受験したら、どちらも落ちてしまった。小さな挫折を味わったのち、補欠合格の通知が来て修道に入るようになった。

入学式の当日か翌日だったと思うのだが、将棋班の担任をしていた風呂呂先生が、校長室に連れて行ってくれた。「この子は将棋のプロを目指しているので月に2回、学校を休みます」これで、どれだけ話がスムーズに進んだか分からない。当時の河野校長と風呂呂先生には、本当に感謝しています。

ただでさえ補欠で入った上に定期的に休むわけだから、なるべく遅れを取らないようにと努力していたら、いつの間にか成績は上位になっていた。高2のときに一度だけ、文系で一番になって、それなら、ということで東大を受験することにした。高3の頃は、家で試験対策の問題に取り組んでは、解答を先生方に見てもらっていた。いま考えると先生方は完全なるサービス残業で、大変な苦勞をかけてしまった。その甲斐あって合格できた、ということを楽しみ、恩返しの意味でも記しておかねばならない。

修道はとにかく自由なところだった。広島各地から（たまに隣の県からも）いろんな人間が集まっ



平成6年度 修道中学校1年4組集合写真（ご本人 最前列左から3人目）
学年主任：高橋俊夫先生（中央左）、担任：山田薫先生（中央右）

てきていて、男しかないところを除けば、かなり多様性の高い環境だった気がする。おかげで定期的に学校を休んでも異端視されることなく、むしろ応援してもらいながら中高生活を全うすることができた。将棋のほうは卒業からさらに4年、奨励会に入ってから10年以上もの時を経て、なんとかプロになることができた。初の東大生棋士といふん取り上げてもらったが、自分としては東大よりも修道のほうが思い入れは強い。修道で唯一の例と言えば、棋士の他にはオリンピックのメダリストぐらいだろうか？いつか第2の修道士棋士が誕生する日を、楽しみに待ちたい。

修道学園同窓会連合会・修道学園（中・高）同窓会
事業報告並びに収支決算、収支予算

2024(令和6)年度 事業報告

(2024年4月1日～2025年3月31日)

1. 修道学園同窓会連合会

事 項	実施日	備 考
監査会	2024年5月14日(火)	修道中学校・修道高等学校
正副会長会議、幹事会・評議員会（6月）	2024年6月14日(金)	ホテル広島ガーデンプレリス
正副会長会議、幹事会・評議員会（3月）	2025年3月7日(金)	ホテル広島ガーデンプレリス

2. 修道学園(中・高)同窓会

(1)事業

事 項	実施日	備 考
正副会長会議、幹事会・評議員会（6月）	2024年6月14日(金)	ホテル広島ガーデンプレリス
会報誌「修道」№90発行	2024年9月1日(日)	
正副会長会議（9月）	2024年9月7日(土)	リーガロイヤルホテル広島
幹事会・評議員会（9月）	不開催	
講演会（田原校長先生）・意見交換会	2024年9月7日(土)	リーガロイヤルホテル広島
修道学園（中・高）同窓大会	2024年9月7日(土)	リーガロイヤルホテル広島
臨時正副会長会議	2025年2月18日(火)	修道中学校・修道高等学校
第77回修道高等学校卒業式（同窓会入会式）	2025年3月1日(土)	修道中学校・修道高等学校
正副会長会議、幹事会・評議員会（3月）	2025年3月7日(金)	ホテル広島ガーデンプレリス

(2)同窓大会・支部・職域総会

総会名	開催日	備 考
2024年度修道学園（中・高）同窓大会	2024年9月7日(土)	リーガロイヤルホテル広島
関東支部のつどい	2024年7月8日(月)	東京ビームホテル
近畿支部総会	2024年12月1日(日)	ホテルグランヴィア大阪
九修会総会	2024年11月17日(日)	博多八仙閣本店
東部修道会総会	2024年10月28日(土)	福山ニューキャッスルホテル
江能修友会総会	2024年6月16日(日)	uminos（旧サンビーチ沖美）
修道医会総会	2024年7月27日(土)	ANAクラウンプラザホテル広島
広島修道歯科医会総会	2024年11月9日(土)	ANAクラウンプラザホテル広島
広島市修道会総会	2025年1月30日(火)	広島市文化交流会館

(3)活動支援

※高校77回生に卒業記念品を贈呈
※修道中学校・修道高等学校「運動班・文化班等」の活動支援（激励費支給）

事 項	実施日
第11回NPＴ再検討会議 第2回準備委員会への高校生派遣事業	2024年7月22日（スズメーラ）
令和6年度全国高等学校総合体育大会自転車競技大会 トラック競技（クイック）・ロード競技	2024年7月25日～7月29日
第48回全国高等学校総合文化祭「ざぶろん文2024」文芸部門	2024年8月2日～8月4日
第64回全国中学校水泳競技大会 競泳競技	2024年8月17日～8月19日
令和6年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 競泳競技	2024年8月17日～8月20日
第55回全国中学校柔道大会 男子個人	2024年8月20日～8月23日
第18回全国中学生少林寺拳法大会 単独・組・団体演武の部	2024年8月23日～8月25日
第78回国民スポーツ大会（水泳競技）	2024年9月14日～9月16日
第108回日本陸上競技選手権大会（リレー競技）リレーフェスティバル2024	2024年10月5日～10月6日
第47回全国高等学校柔道選手権大会 男子個人	2025年3月19日～3月20日
令和6年度全国高等学校選抜自転車競技大会 トラック競技	2025年3月24日～3月27日
第28回全国高等学校少林寺拳法選抜大会 規定組演武の部	2025年3月26日～3月28日

3. 広島修道大学同窓会

(1)事業

事 項	実施日	備 考
アメリガゼット№52発行	2024年10月1日(火)	
第60回広島修道大学同窓大会	2024年11月2日(日)	リーガロイヤルホテル広島
広島フライングフェスティバルへの参加	2024年5月3日～5日	さつきステージ

(2)支部総会

総会名	開催日	備 考
九州修大会	2024年6月1日(土)	ホテルクリオコート博多
中部修大会	2024年6月22日(土)	ストリオンクスホテル名古屋
宇部修大会	2024年11月30日(土)	国際ホテル宇部
岡山修大会	2024年8月31日(土)	ブークホテル岡山
三次修大会	2025年3月22日(土)	森新
福山修大会	2024年9月7日(土)	福山ニューキャッスルホテル
関東修大会	2024年9月14日(土)	アルカディア市ヶ谷
周南修大会	2024年11月16日(土)	敦賀周南店
岩国修大会	2024年9月28日(土)	料理百果「花善」
関西修大会	2024年10月20日(日)	ハーブホテル西梅田
長崎修大会	2024年10月26日(土)	西湖
北海道修大会	2024年9月28日(土)	ホテルニューオオタニイン札幌
日本海修大会	2024年10月26日(土)	GUZEL
香川修大会	2024年11月9日(土)	ホテルマリンピアスさぬぎ
鹿児島修大会	2024年12月7日(土)	青鹿
愛媛修大会	2025年2月22日(土)	松山東急REホテル

4. 広島修道大学大学院同窓会

(1)事業

事 項	実施日	備 考
2024年度広島修道大学大学院総会	2024年8月24日(土)	多津蒔

5. 鈴峯同窓会

(1)事業

事 項	実施日	備 考
鈴峯同窓会総会	2024年7月28日(日)	ANAクラウンプラザホテル広島

2024(令和6)年度 修道学園同窓会連合会 資金収支決算書

2024(令和6)年4月1日から2025(令和7)年3月31日まで

(収入の部)

科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
分担金	1,476,000	1,418,000	58,000	@1,000円×1,418名 (中蔵278名,大学837名,大学院23名,鈴峯280名)
預金利息	25,000	35,883	△10,883	普通預金利息・定期預金利息
雑収入	1,000	10,000	△9,000	合同懇親会 祝い金 他
小 計	1,502,000	1,463,883	38,117	
前年度繰越金	29,512,405	29,512,405	0	
収入の部 合計	31,014,405	30,976,288	38,117	

(単位：円)

(支出の部)

科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
業務費	600,000	291,858	308,142	
会議費	230,000	94,666	135,334	合同会議会場代 他
通信費	150,000	60,435	89,565	合同会議案内郵便代 他
慶弔費	100,000	70,000	30,000	同窓大会祝金・永年勤続表彰記念品料
諸費	120,000	66,757	53,243	印刷代・残高証明書手数料 他
予備費	500,000	0	500,000	
小 計	1,100,000	291,858	808,142	
次年度繰越金	29,914,405	30,684,430	△770,025	
支出の部 合計	31,014,405	30,976,288	38,117	

貸借対照表 2025(令和7)年3月31日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
事業基金引当特定資産	8,537,629	事業基金引当金	8,537,629
普通預金	8,537,629		
一般会計資産	30,684,430	剰余金	30,684,430
普通預金	15,628,066		
普通預金	56,364		
定期預金	15,000,000		
合 計	39,222,059	合 計	39,222,059

事業基金引当特定資産収支明細書

2024(令和6)年4月1日から2025(令和7)年3月31日まで (単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
残高証明書発行手数料	550	前年度繰越金	8,534,371
次年度繰越金	8,537,629	預金利息	3,808
合 計	8,538,179	合 計	8,538,179

2024(令和6)年度修道学園(中・高)同窓会 資金収支決算書

2024(令和6)年4月1日から2025(令和7)年3月31日まで

(収入の部)

科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
入会金	852,000	834,000	18,000	@3,000円×278名 (2024年度高3)
終身会費	1,988,000	1,946,000	42,000	@7,000円×278名 (2024年度高3)
名簿売上代	27,500	16,500	11,000	@5,500円×3冊
預金利息	6,000	14,777	△8,777	普通預金利息・定期預金利息
雑収入	900,000	852,700	47,300	2023 (令和5) 年度同窓大会剰余金 他
小 計	3,773,500	3,663,977	109,523	
前年度繰越金	37,719,905	37,719,905	0	
収入の部 合計	41,493,405	41,383,882	109,523	

(単位：円)

(支出の部)

科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
事業費	1,950,000	1,395,311	554,689	
激励費	500,000	140,000	360,000	全国大会出場選手等への激励費
同窓大会補助金	200,000	200,000	0	2024 (令和6) 年度同窓大会補助金
卒業記念品料	650,000	591,111	58,889	卒業記念品
その他の事業費	600,000	464,200	135,800	会報誌90号3,000部
業務費	1,810,000	1,210,128	599,872	
会議費	530,000	349,919	180,081	合同会議会場代 他
通信費	450,000	169,211	280,789	合同会議案内郵便代・電話代・宅急便代 他
慶弔費	180,000	180,000	0	支部総会祝金・永年勤続表彰記念品料
諸費	650,000	510,998	139,002	支部助成金・印刷代・残高証明書手数料 他
その他の支出	284,000	278,000	6,000	
連合分担金	284,000	278,000	6,000	@1,000円×278名 (2024年度高3)
予備費	500,000	0	500,000	
小 計	4,544,000	2,883,439	1,660,561	
次年度繰越金	36,949,405	36,500,443	△1,551,038	
支出の部 合計	41,493,405	41,383,882	109,523	

貸借対照表 2025(令和7)年3月31日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
事業基金引当特定資産	20,903,594	事業基金引当金	20,903,594
普通預金	20,903,594		
一般会計資産	38,500,443	剰余金	38,500,443
普通預金	10,107,975		
普通預金	1,392,468		
定期預金	27,000,000		
合 計	59,404,037	合 計	59,404,037

事業基金引当特定資産収支明細書

2024(令和6)年4月1日から2025(令和7)年3月31日まで (単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
残高証明書発行手数料	330	前年度繰越金	20,894,267
次年度繰越金	20,903,594	預金利息	9,657
合 計	20,903,924	合 計	20,903,924

2024年度修道学園(中・高)同窓大会 収支決算書

2024年 4 月 1 日から2025年 3 月31日まで

(収入の部) (単位：円)

科 目	決算額	摘 要
補助金	200,000	修道学園 (中・高) 同窓会より
広告収入	3,250,000	協賛広告、同朋会広告
会員券裏面広告協賛	150,000	蔵田フレイミング株式会社
チケット	2,083,000	299枚販売
祝金	200,000	修道学園、修道中学高等学校、広島修道大学、広島修道大学同窓会、広島修道大学大学院同窓会他からの祝金
預金利息	534	
寄付金	430	
記念品売上	300,000	
収入の部 合計	6,193,964	

(支出の部) (単位：円)

科 目	決算額	摘 要
大会チケット・大会誌作成費	1,758,800	
大会運営費	3,984,630	
会場費	3,435,630	
飲食費	3,052,500	
設備利用費等	383,130	
その他	549,000	
記念品関係支出	459,000	クリアファイル、トートバッグ、コラボTシャツ
司会謝礼	60,000	本名正憲様
その他謝礼金	30,000	ヒロシツグループ様
広告宣伝費	165,000	広島朝日広告社様
印刷費	1,200	
交通費	0	
会議費	193,500	
郵送費	0	
雑費・手数料・通信費	3,410	
一般会計一部繰り入れ金	87,324	修道学園 (中・高) 同窓会
支出の部 合計	6,193,964	

2025(令和7)年度 修道学園同窓会連合会 資金収支予算書

2025(令和7)年4月1日から2026(令和8)年3月31日まで

(収入の部)

(単位：円)

科 目	予 算	前年度予算	差 異	摘 要
分担金	1,305,000	1,476,000	△171,000	各同窓会よりの分担金@1,000円×1,305名 (中蔵276名、大学900名、大学院5名、幹事224名)
預金利息	25,000	25,000	0	普通預金利息・定期預金利息
雑収入	1,000	1,000	0	
小 計	1,331,000	1,502,000	△171,000	
前年度繰越金	30,684,430	29,512,405	1,172,025	
収入の部 合計	32,015,430	31,014,405	1,001,025	

(支出の部)

(単位：円)

科 目	予 算	前年度予算	差 異	摘 要
業務費	620,000	600,000	20,000	
会議費	250,000	230,000	20,000	合同会議（6月・3月）・監査会 他
通信費	150,000	150,000	0	切手/ハガキ代・宅急便代 他
慶弔費	100,000	100,000	0	同窓会祝金・永年勤続表彰 他
諸費	120,000	120,000	0	封筒代・印刷代・事務用品 他
予備費	500,000	500,000	0	
小 計	1,120,000	1,100,000	20,000	
次年度繰越金	30,895,430	29,914,405	981,025	
支出の部 合計	32,015,430	31,014,405	1,001,025	

(注)

1. △は前年度予算に比べ、減少を示す。
2. 昨今の物価高騰等を考慮し、必要な科目の予算額を増額しており、2024年度3月幹事会審議にて承認済み。

2025(令和7)年度 修道学園(中・高)同窓会 資金収支予算書

2025(令和7)年4月1日から2026(令和8)年3月31日まで

(収入の部)

(単位：円)

科 目	予 算	前年度予算	差 異	摘 要
入会金	828,000	852,000	△24,000	@3,000円×276名（2025年度高3）
終身会費	1,932,000	1,988,000	△56,000	@7,000円×276名（2025年度高3）
名簿売上代	3,830,000	27,500	3,802,500	@6,000円×5冊・名簿38号還元金
預金利息	6,000	6,000	0	普通預金利息・定期預金利息
雑収入	200,000	900,000	△700,000	2024年度同窓大会余剰金 他
事業基金引当特定資産からの繰入収入	5,000,000	0	5,000,000	
小 計	11,796,000	3,773,500	8,022,500	
前年度繰越金	38,500,443	37,719,905	780,538	
収入の部 合計	50,296,443	41,493,405	8,803,038	

(支出の部)

(単位：円)

科 目	予 算	前年度予算	差 異	摘 要
事業費	2,200,000	1,950,000	250,000	
激励費	500,000	500,000	0	全国大会出場選手等への激励費
同窓大会補助金	200,000	200,000	0	2025年度同窓大会補助金
卒業記念品料	700,000	650,000	50,000	卒業記念品
その他の事業費	800,000	600,000	200,000	会報誌3,000部 他
業務費	1,880,000	1,810,000	70,000	
会議費	550,000	530,000	20,000	会議代（6月合同・9月・3月合同） 他
通信費	500,000	450,000	50,000	電話代・切手/ハガキ代・宅急便代 他
慶弔費	180,000	180,000	0	同窓会支部総会祝金・永年勤続表彰 他
諸費	650,000	650,000	0	支部助成金・支部総会出席者旅費補助 封筒代・印刷代・事務用品 他
その他の支出	276,000	284,000	△8,000	
連合分担金	276,000	284,000	△8,000	@1,000円×276名（2025年度高3）
特別事業費	5,000,000	0	5,000,000	
300周年同窓大会特別企画運営費	5,000,000	0	5,000,000	2025年度同窓大会特別企画補助金
予備費	2,000,000	500,000	1,500,000	
小 計	11,356,000	4,544,000	6,812,000	
次年度繰越金	38,940,443	36,949,405	1,991,038	
支出の部 合計	50,296,443	41,493,405	8,803,038	

(注)

1. △は前年度予算に比べ、減少を示す。
2. 事業基金引当特定資産の同窓大会特別企画運営費での使用について、2024年度3月幹事会審議にて承認済み。
3. 昨今の物価高騰等を考慮し、必要な科目の予算額を増額しており、予算書は2024年度3月幹事会審議にて承認済み。

同窓会ニュース



本館建替等工事進捗報告とご支援へのお礼

修道学園創設300周年記念事業として進めてまいりました『修道中学校・修道高等学校本館建替等工事』も、本館・北館・広場等の主要部分を完了、一部改装箇所の作業終了を待って、10月7日に完成式典を行う運びとなりました。

過去の資料と重複する部分があるかと存じますが、表のような流れで進めてまいりました。

令和4年5月2日	起工式
令和4年8月末	『Yショップ shūDO 店』オープン
令和5年7月	『新敬道館』供用開始
令和5年11月末	『新本館』供用開始
令和7年4月末	『北館増築、西敷地渡り廊下（ブリッジ）及び修道広場』供用開始



Yショップ shūDO 店



新敬道館（クライミングウォール）



新本館



渡り廊下と修道広場

令和3（2021）年4月より開始いたしましたご寄附のお願いも、令和7（2025）年4月末をもちまして所定期間を満了、この4年間に、当初の目標を大きく上回る約2億5800万円のご協力をいただきましたこと、同窓会、保護者・関係者の皆様のおかげと深く感謝申し上げます。各卒業回別内訳につきましては、21～22ページをご確認ください。

なお、所定期間満了に伴い、ご案内しておりました寄附専用の口座も解約となっております。そのため卒業生の皆様にお渡ししておりました振込用紙も、現在は使用できませんので、ご注意ください。

完成いたしました諸施設を有効活用し、来たる100年のさらなる発展を目指して教育の充実をはかってまいります。皆様方におかれましては、引き続き修道中学校・修道高等学校の発展にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

寄附へのご協力、誠にありがとうございました。

学校見学の希望等、何かございましたら、同窓会事務局までご連絡ください。引き続き、卒業生の皆様にはご協力をお願いすることもあるかと存じますが、重ねて何卒よろしくお願い申し上げます。

修道学園（中・高）同窓会会員名簿 第38号発行のお知らせ

名簿委員長 田戸 亨（高40回）

修道学園（中・高）同窓会会員名簿は3年毎に発行されておりましたが、個人情報保護法施行後初の平成22年3月発行となった第35号以降は5年毎に発行となりました。同窓生の皆様のご協力により、第36号、第37号と号数を重ねていき、令和7年3月に第38号を発行する運びとなりました。令和7（2025）年は母体となる修道学園創始300周年の年にあたり、第38号は『創始300年記念号』として、化粧箱付きのハードカバーで作成となっております。

本名簿作成時点での同窓生は総勢約34,370名となり、そのうち旧中5,701名、新中720名、夜中1,053名、夜高212名、新高26,488名となります。同窓生（存命者）の住所判明率が75%を超えており、長い歴史を持つ同窓会としてこの判明率は、同窓生の皆様の「修道」に対する思いが、懐かしさと充実感に満ちた「感動の青春時代」として、心の真ん中にあるからだと思います。

同級生の横のつながり、先輩後輩との縦のつながりがダイナミックに連携しているのが修道学園（中・高）同窓会の特徴であり、その一助となるのが「会員名簿」であると思います。ご協力いただいた同窓会役員及び会員の皆様に心からお礼申し上げます。

既にご購入いただいている方も多いと思いますが、同窓生の方でご購入希望の方がいらっしゃいましたら、数に限りはございますが同窓会事務局（TEL：082-241-6686）までご連絡ください。

最後に、修道学園（中・高）同窓会会員名簿第38号の刊行にあたり、多大なるご理解とご協力をいただきました多くの方々に今一度感謝申し上げまして、結びとさせていただきます。



修道中学校・修道高等学校創始300周年特設サイト（ホームページ）のご紹介

『修道学園創設300周年事業 修道中学校 修道高等学校本館建替等工事 ご支援のお願い』に關しまして、多大なるご寄附を賜り、誠にありがとうございました。

さて、本事業は同窓会ホームページとは別に、専用のホームページを公開しております。専用ホームページには、“300周年事業NEWS”、“メモリアルムービー”等を掲載しております。

是非ご覧ください。引き続き、よろしくお願いいたします。

300周年特設サイトホームページ：<https://gakugai.shudo-h.ed.jp/300th/>



卒業回別	目標額 達成率	寄附金 目標額※	合 計		個 人		受配者指定	特定公益	その他
			金額 (円)	件 数	金額 (円)	件 数	金額 (円)	金額 (円)	金額 (円)
高校 47回	55.4%	2,592,000	1,435,000	26	1,435,000	26	0	0	0
高校 48回	42.4%	2,808,000	1,190,000	17	690,000	16	500,000	0	0
高校 49回	20.5%	2,640,000	540,000	17	540,000	17	0	0	0
高校 50回	7.8%	2,556,000	200,000	8	200,000	8	0	0	0
高校 51回	9.8%	2,544,000	250,000	12	250,000	12	0	0	0
高校 52回	6.2%	2,592,000	160,000	7	160,000	7	0	0	0
高校 53回	15.8%	2,772,000	438,940	19	438,940	19	0	0	0
高校 54回	13.5%	3,036,000	410,000	15	380,000	14	30,000	0	0
高校 55回	19.7%	3,144,000	620,000	14	320,000	13	300,000	0	0
高校 56回	12.5%	3,120,000	390,000	12	390,000	12	0	0	0
高校 57回	9.4%	2,760,000	260,000	10	260,000	10	0	0	0
高校 58回	7.1%	2,892,000	205,000	9	205,000	9	0	0	0
高校 59回	4.6%	2,844,000	130,000	7	130,000	7	0	0	0
高校 60回	15.2%	3,096,000	470,000	17	470,000	17	0	0	0
高校 61回	8.7%	2,988,000	260,000	10	260,000	10	0	0	0
高校 62回	6.9%	2,880,000	200,000	8	200,000	8	0	0	0
高校 63回	21.3%	3,192,000	680,000	16	680,000	16	0	0	0
高校 64回	10.9%	3,072,000	335,000	11	335,000	11	0	0	0
高校 65回	8.2%	3,168,000	260,000	9	260,000	9	0	0	0
高校 66回	11.9%	3,192,000	380,000	9	380,000	9	0	0	0
高校 67回	12.7%	3,300,000	420,000	16	390,000	15	0	0	30,000
高校 68回	3.6%	3,180,000	115,000	6	115,000	6	0	0	0
高校 69回	9.4%	3,336,000	315,000	13	315,000	13	0	0	0
高校 70回	12.0%	3,336,000	400,000	14	400,000	14	0	0	0
高校 71回	16.1%	3,360,000	540,000	21	540,000	21	0	0	0
高校 72回	18.7%	3,324,000	623,000	24	623,000	24	0	0	0
高校 73回	※令和 3 年 3 月卒業生		723,916	18	450,000	17	0	0	273,916
高校 74回	※令和 4 年 3 月卒業生		690,000	16	690,000	16	0	0	0
高校 75回	※令和 5 年 3 月卒業生		380,000	11	380,000	11	0	0	0
高校 76回	※令和 6 年 3 月卒業生		280,000	7	280,000	7	0	0	0
高校 77回	※令和 7 年 3 月卒業生		190,000	4	190,000	4	0	0	0
夜高	1 回～ 5 回		40,000	2	40,000	2	0	0	0
その他	同窓生関係企業		22,410,000	24	1,000,000	2	19,250,000	1,860,000	300,000
同窓生関係 合計			213,871,386	3,203	166,610,470	3,117	42,350,000	3,400,000	1,510,916
教職員・保護者・その他 合計			44,337,306	409	13,040,000	349	5,060,000	25,201,306	1,036,000
総 計			258,208,692	3,612	179,650,470	3,466	47,410,000	28,601,306	2,546,916

※寄附金目標額は「連絡可能人数」×4割×3万円（一口）として算出（2020(令和2)年度3月幹事会・評議員会資料より）

区 分	件 数	金額 (円)	備 考	構成比率
同窓生（個人）	3,117	166,610,470		64.5%
同窓生（法人：受配者指定寄付金）	55	42,350,000		16.4%
同窓生（法人：特定公益法人に対する寄付金）	20	3,400,000		1.3%
同窓生（その他）	11	1,510,916		0.6%
同窓生関係 合計	3,203	213,871,386		82.8%
法人（受配者指定寄付金）	21	5,060,000	※同窓生関係分を除く	2.0%
法人（特定公益法人に対する寄付金）	37	25,201,306	※同窓生関係分を除く	9.8%
教職員・保護者・その他	351	14,076,000	※同窓生分、特定公益法人に対する寄付金、受配者指定寄付金除く	5.5%
総 計	3,612	258,208,692		100%

寄附金報告

卒業回別	目標額 達成率	寄附金 目標額※	合 計		個 人		受配者指定 金額 (円)	特定公益 金額 (円)	その他 金額 (円)
			金額 (円)	件 数	金額 (円)	件 数			
旧中	1回～40回		1,345,000	42	1,345,000	42	0	0	0
夜中	1回～46回		0	0	0	0	0	0	0
新中	1回～3回		1,115,000	9	1,115,000	9	0	0	0
高校 1回	9.7%	360,000	35,000	3	35,000	3	0	0	0
高校 2回	185.7%	420,000	780,000	15	780,000	15	0	0	0
高校 3回	62.5%	840,000	525,000	19	525,000	19	0	0	0
高校 4回	173.8%	912,000	1,585,000	24	1,555,000	23	0	0	30,000
高校 5回	48.9%	1,836,000	897,000	29	897,000	29	0	0	0
高校 6回	562.3%	2,136,000	12,010,000	68	12,010,000	68	0	0	0
高校 7回	234.3%	2,508,000	5,875,000	80	5,375,000	77	300,000	200,000	0
高校 8回	133.9%	2,724,000	3,647,000	84	3,647,000	84	0	0	0
高校 9回	101.4%	2,484,000	2,520,000	71	2,370,000	70	0	150,000	0
高校 10回	146.5%	2,988,000	4,376,000	88	4,276,000	87	0	0	100,000
高校 11回	230.1%	2,964,000	6,820,000	95	5,320,000	94	1,500,000	0	0
高校 12回	248.6%	2,676,000	6,652,500	86	6,652,500	86	0	0	0
高校 13回	184.6%	3,384,000	6,248,000	98	6,248,000	98	0	0	0
高校 14回	190.1%	3,552,000	6,751,000	79	6,051,000	77	500,000	200,000	0
高校 15回	122.4%	3,372,000	4,128,000	80	3,128,000	78	1,000,000	0	0
高校 16回	123.4%	3,600,000	4,443,000	109	3,843,000	104	300,000	120,000	180,000
高校 17回	366.3%	3,912,000	14,330,000	85	4,330,000	84	10,000,000	0	0
高校 18回	147.8%	4,116,000	6,085,000	92	4,708,000	89	1,300,000	0	77,000
高校 19回	140.2%	3,948,000	5,535,000	73	5,435,000	72	0	100,000	0
高校 20回	106.3%	4,440,000	4,720,000	92	4,520,000	90	200,000	0	0
高校 21回	82.5%	3,984,000	3,288,000	63	3,288,000	63	0	0	0
高校 22回	151.3%	4,032,000	6,100,000	134	5,990,000	131	110,000	0	0
高校 23回	280.9%	4,404,000	12,372,000	59	11,972,000	58	0	0	400,000
高校 24回	130.4%	3,948,000	5,148,000	66	3,148,000	64	2,000,000	0	0
高校 25回	129.1%	3,648,000	4,710,000	74	4,710,000	74	0	0	0
高校 26回	61.2%	3,888,000	2,380,000	70	2,380,000	70	0	0	0
高校 27回	70.2%	3,912,000	2,745,000	52	1,745,000	50	1,000,000	0	0
高校 28回	130.0%	4,440,000	5,770,000	95	4,490,000	90	1,180,000	100,000	0
高校 29回	75.1%	2,916,000	2,190,000	47	2,190,000	47	0	0	0
高校 30回	132.3%	2,964,000	3,920,000	71	3,210,000	66	650,000	60,000	0
高校 31回	79.9%	3,744,000	2,990,000	63	2,490,000	62	500,000	0	0
高校 32回	54.1%	2,700,000	1,460,000	47	1,360,000	46	0	100,000	0
高校 33回	159.9%	3,420,000	5,470,000	56	5,370,000	55	0	0	100,000
高校 34回	54.8%	3,516,000	1,926,000	57	1,926,000	57	0	0	0
高校 35回	65.6%	2,364,000	1,550,000	45	1,550,000	45	0	0	0
高校 36回	49.6%	2,580,000	1,280,000	36	1,280,000	36	0	0	0
高校 37回	19.5%	3,072,000	600,000	22	600,000	22	0	0	0
高校 38回	113.6%	3,336,000	3,790,000	41	3,460,000	39	0	330,000	0
高校 39回	44.4%	3,084,000	1,370,000	39	1,340,000	38	0	30,000	0
高校 40回	82.7%	2,856,000	2,363,000	44	913,000	37	1,450,000	0	0
高校 41回	45.2%	2,988,000	1,350,000	27	1,350,000	27	0	0	0
高校 42回	25.9%	2,892,000	750,000	22	600,000	21	150,000	0	0
高校 43回	25.0%	2,976,000	745,000	21	645,000	20	100,000	0	0
高校 44回	25.3%	3,360,000	850,000	29	820,000	28	30,000	0	0
高校 45回	39.8%	3,168,000	1,260,000	28	1,110,000	27	0	150,000	0
高校 46回	41.3%	2,736,000	1,131,030	45	1,111,030	44	0	0	20,000

事務局だより

昭和33年3月卒（10回卒）以前の写真を求めています。

① 卒業アルバム

2025年に創立300周年を迎えるに当たり、修道中学校・修道高等学校では、その記録を長く後生に伝えんがため、現在、所蔵資料の整理確認と、紙資料のデジタルデータ化事業を進めております。

本校に残ります写真のデータ化を中心に作業を急いでおりますが、残念なことに、昭和33年3月卒業（高校10回）以前の卒業アルバムが残されておられません。

つきましては、高校10回卒以前の卒業アルバムを一時本校に預けてもよいとおっしゃる方を探しております。お預かりしたアルバムは大切に保管し、デジタルデータ化後（約1年ほど時間をいただくことになります。）にご返却いたします。お志のある方がいらっしゃいましたら、下記「修道学園（中・高）同窓会事務局」までご連絡ください。

② その他写真

卒業アルバムに限らず、修道中学校・修道高等学校に関わる古い写真を求めています。お送りいただいた写真は、デジタルデータ化し、インターネット上で皆様に閲覧していただけるようアーカイブ化していく予定です。

【ご注意】

1. お送りいただいた写真はご返却できません。デジタルデータ化の後、本校にて丁重に保管させていただきますので、ご了解いただける場合のみご送付ください。
2. デジタルデータは、修道中学校・修道高等学校の歴史を広くご覧いただく目的で将来公開していく予定です。公開にご了解いただける場合のみご送付ください。
3. できましたら、写真の説明（撮影年代、状況の説明など）を同封いただけると助かります。

何とぞ趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。ご不明な点がございましたら事務局までご連絡ください。

住所変更手続きのお願い

会員の方で住所・電話番号・勤務先・メールアドレス等変更になった方は、変更手続きをお願いします。

変更手続きは、修道学園（中・高）同窓会のホームページに掲載されております、同窓会事務局宛のメールアドレス宛に変更をご連絡いただくか、または同窓会名簿内の添付はがきで、同窓会事務局までご連絡ください。電話・FAXでも結構です。ご協力をお願いいたします。【本ページの下部を参照ください。】

ご 注 意

本同窓会の名をかたって名簿を販売するケースが頻繁に起こっています。不審なハガキや電話等にはお答えにならないようお願いします。同窓会が名簿を発行する場合は、必ず同窓会長名で調査を行います。

修道学園（中・高）同窓会事務局

〒730-0055 広島市中区南千田西町8番1号

TEL (082) 241-6686 FAX (082) 249-0870

E-mail : dosokai@shudo-h.ed.jp

